

目的 着衣基体としての老人の体型の特徴を把握する目的で、老人の身体計測ならびに写真撮影をおこなったが、今回は身体計測値について一部を報告する。

方法 資料は、昭和51年3月に京都市北区小野郷および、京都府北桑田郡京北町細野在住の60才から91才までの男子59名，女子83名，合計142名である。研究項目は、身体計測値30項目で体型把握は示数値によった。すなわち、身長を尺度とした10項目、胸囲を尺度とした10項目、および長幅示数4項目等とし、更にモリソンの関係偏差法によつて、体型の総合比較をおこなった。

結果 各項目において計測値の範囲が広く、特に女子の周径項目および体重の標準偏差が大きい。年代的变化については、高径項目において漸少の傾向がみられる。示数値についてみると、男女共、腹囲／胸囲，腰囲／胸囲，胴部矢状径／横径，腹部矢状径／横径が大きな数値を示し、胴部を中心に体型が変化していることを示している。モリソンの関係偏差折線により体型を総合的に判断した結果、20才代に比べて男女とも高径において負に偏する傾向がみられたが、女子の胴囲およびローレル示数は正に偏している。